

2017年1月6日（1月14日微修正） 3月17日改訂

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 23

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

1947年に中華民国がパラセル諸島とスプラトリー諸島の新旧地名対照表を発表し、また「南海諸島位置図」を完成してそこに「U字線」を書き入れたことは周知のとおりである[ヘイトン 2015: 91]が、台湾国史館がオンラインで公開している档案資料中にこの件に関する文書があることに気がついたので、これを紹介し、従来の認識に若干の補訂を加えたい。またオンラインで公開されていない文書中に1930年代の中華民国の南シナ海に対する政策に関するものが含まれているので、その情報を付記しておく（付記2）。

《渤海湾海峡及南海島湾名称》という巻のなかに「南海諸島位置図」と題された一件資料が含まれている（《国民政府/内政/方域/島嶼》，国史館蔵，典藏号:001-056112-0001,入蔵登録号:001000004852A）。その中には行政院から国民政府主席に提出された文書、「南海諸島新旧地名対照表」、6種の地図が含まれている。「南海諸島新旧地名対照表」は手書きの表を青焼きしたものである。「南海諸島新旧地名対照表」と諸地図は内政部が行政院に提出したものである。

行政院が1947年8月7日に提出した文書は下記のとおりである。

事由：内政部呈送南海諸島位置図等件核属可行轉呈核備由。

奉鈞座本年午佳侍（海）字第21740号代電、以關於宣佈收復西南沙群島並確定其範圍一案、准照本院第九次會議之審查決議案辦理、并飭詳報南沙群島应属我国之根拠等因。經將該項審查意見抄發内政・外交・国防三部遵辦、并飭内政部將南沙群島应属我国之根拠詳報去後、茲據内政部呈復稱、除南沙群島应属我国之根拠另行查明呈報外、僅依照前項決議案、製就南海諸島位置圖等件請鑒核等情。經核尚属可行、理合先行抄檢原件備文呈請鑒核備案、謹呈国民政府主席蔣。

附抄呈内政部原呈一件檢南海諸島位置圖・西沙群島圖・中沙群島圖・南沙群島圖・太平島圖・永興島及石島圖、南海諸島新旧名称对照表一份。

行政院院長 張群。

抄原呈

奉鈞院三十六年七月十五日（卅六）七外字第二七七八一號訓令、以進駐西南沙群島艦隊指揮官林遵建議公佈西南沙群島為我收復、并確定其範圍一案、經召集有關機關開會審查提出院會決議照審查意見通過呈奉主席代電准予照辦、并飭將南沙群島应属我国之根拠詳為呈報等因。除南沙群島应属我国之根拠另行查明呈報外、查關於南

海諸島位置及名称、応由本部繪製詳図重予擬訂、送經本部及外交・国防兩部與海軍總司令部會商決議、并於三十五年十月四日以機情集字第四二五八号會呈及方字第〇〇〇五号呈分別報請鈞院鑒核在案。現西南沙群島範圍既經確定、自應依照前項決議案、將南海諸島位置繪製詳図并將名稱重予擬訂、以便通告全國週知并據以審訂各級教科書及輿地圖。茲經製就南海諸島位置図・西沙群島図・中沙群島図・南沙群島図・太平島図・永興島図及石島図、南海諸島新旧名稱對照表各一份。其中太平島図與永興島及石島図并係本部前次派往接收人員所實測、是否有當、理合備文呈請鈞院鑒核。倘蒙裁可擬請轉呈國民政府備案、以符法定程序。

この文書によれば、この時点で国民政府では南シナ海問題に関して、西沙群島と南沙群島の範囲を確定することと南沙群島が中華民国に帰属すべき根拠を示すことが課題となっていたが、内政部は後者については精査の後に処理するとして、まず前者の課題について、6種の地図（南海諸島位置図・西沙群島図・中沙群島図・南沙群島図・太平島図・永興島図及石島図）と南海諸島新旧名称対照表を提出した。従来、「南海諸島位置図」についてのみ言及がなされてきたが、このほかにも各群島と主要な島（Itu Aba island, Woody Island, Rocky Island）の地図も作成されていたことが知られる。これらの地図に関して以下の二点が注目に値する。

「南海諸島位置図」だけでなく「南沙群島図」にも「U字線」が破線で書き込まれているが、個々の線分は「南海諸島位置図」のものより短くスプラトリー諸島方面だけで既に10段の線分が描かれている。「南海諸島位置図」の「U字線」が11段であることに特に意味がないことは、この図からも窺われる。

Itu Aba island, Woody Island, Rocky Island に関しては、46年の接收の際に行われた実測に基づく地図が付されているが、水深もないごく単純な図である。おそらくこの簡単な調査が、中国が歴史上初めてこの海域で行った測量調査であろう。その他の島々については、他国が行った調査の情報に基づいて地図製作が行われたと考えられる。

ビル・ヘイトン（安原和見訳）、2015、『南シナ海：アジアの覇権をめぐる闘争史』東京：河出書房新社。

#### 付記1

「南海諸島位置図」作製に至る歴史的経緯と「U字線」の性格について検討した下記の論文によると、「南海諸島位置図」に先立って1946年10月に内政部が行政院に送った「中華民國領南海諸島位置略図」に既に「U字線」が描かれている。

陳鴻瑜、2016。「中華民國政府繪製南海諸島範圍線之決策過程及其意涵」『国史館館刊』第47期。

付記 2

提仁輔函陳西沙群島在清末與日交涉經過案

數位典藏號 014-020200-0122

全宗系列 行政院/-/-

本卷日期 1947/00/00 ~ 1947/00/00

密等 解密記錄普通

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

西沙群島 (一)

數位典藏號 020-049904-0001

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1932/01/07 ~ 1932/08/23

密等 解密記錄普通

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

西沙群島 (二)

數位典藏號 020-049904-0002

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/07/19 ~ 1936/11/05

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

西沙群島 (三)

數位典藏號 020-049904-0003

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1936/12/10 ~ 1937/07/19

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

西沙群島 (四)

數位典藏號 020-049904-0004

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1937/04/26 ~ 1938/11/18

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

1945 年以降についても、「西沙群島 (五) ~ (十二)」があるが、省略。

法佔九小島

數位典藏號 020-049904-0014

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/07/14 ~ 1933/08/04

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

法佔九小島

數位典藏號 020-049904-0015

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/08/04 ~ 1933/08/10

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

法佔九小島

數位典藏號 020-049904-0016

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/07/29 ~ 1933/08/24

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

法佔九小島

數位典藏號 020-049904-0017

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/08/24 ~ 1933/12/15

密等 解密記錄普通 / 民國 98 年 2 月 17 日外檔資一字第 09801013150 號函

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

法佔九小島

數位典藏號 020-049904-0018

全宗系列 外交部/歐洲司/綜合/國際問題

本卷日期 1933/08/25 ~ 1934/01/25

密等 解密記錄普通

提供方式 地點申請閱覽 (尚未檢視)

このほか水陸地図審査委員会に関する文書も含まれているが、南シナ海に関する資料はまだ確認していない。